

令和6年度使用教科用図書の採択に係る教育委員会会議 会議録

■ 令和5年第7回坂祝町教育委員会会議にて付議

1. 開催日時 令和5年7月12日（金） 午前10時40分 開議

2. 開催場所 坂祝町中央公民館 研修室

3. 出席委員

|               |        |
|---------------|--------|
| 教育長           | 三品 芳則  |
| 教育長職務代理者      | 金武 千秋  |
| 委員            | 古田 博英  |
| 委員            | 兼松 悟   |
| 委員            | 原口 かおり |
| 教育委員会事務局 教育課長 | 堀部 芳章  |
| こども課長         | 岩井正義   |
| 教育課主幹         | 若泉 貴弘  |

※欠席委員なし

4. 議事要旨

議案第24号 令和6年度使用教科用図書の採択について

※教育長が資料に基づいて報告をする。

教育長 教科（国語）種目（国語）は全3者で、可茂地区の子どもたちにとってふさわしい教科書という観点から、上位2者は東京書籍と光村図書です。まず東京書籍6年生「発信しよう、私たちのSDGs」と光村図書6年生「おすすめパンフレットをつくろう」で比較してみると、東京書籍では、SDGsを題材にしており、総合的な学習の時間などに関わらせて学ぶことができます。しかし、単位時間の活動内容が多岐に渡るため、可茂の子どもたちにとっては付けたい資質・能力を焦点化しにくいと考えます。光村図書では、映画や音楽などの子どもが興味をもっていることを題材に学習を進めることができます。単位時間の活動が焦点化されており、目指す姿のモデルも示されていることで学習過程が非常に分かりやすく、「書くこと」に対して苦手意識をもつ可茂の子どもたちにとって学習の見通しが非常にもちやすいと考えます。ふるさと教育に関わる点について、東京書籍では、郷土や伝統に関する単元は、各学年に配置されています。光村図書では、郷土・伝統に関する単元の他に、SDGsに関するテーマも多く扱っています。また、学年が上がるにしたがって、地域から世界へと児童の視野を広げる工夫もされており、外国籍児童の多い、可茂地区に適していると考えます。分かち書きについては、とくに光村図書は、教科書の上下や学年の変わり目ではなく、文章の組み立ての学習を行った後に、分かち書きをなくしています。段階的に文章に慣れさせるという細かい配慮がなされています。上位2者については拮抗しておりましたが、可茂管内の児童には、光村図書がより適していると考えます。

教科（国語）種目（書写）は全3者ですが、上位2者は、東京書籍と光村図書です。まず特別な教育的ニーズのある子どもにもわかりやすく工夫

された教科書であるかという視点で比較してみると、東京書籍では、教科書体以外は、ユニバーサルデザインフォントが使用されています。カラーユニバーサルデザインの観点から、配色やデザインについて、全ページにわたって専門家による検証がなされているため、とても見やすくなっています。さらに「とめ・はね・はらい」の違いを種類の違うキャラクターで示し、注目しやすくしています。光村図書では、単元名、教材名や「たいせつ」コーナーには、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。また、配色にも配慮していますが、「たいせつ」コーナーにおいて、薄い緑の背景に緑の文字で書かれている部分があり、やや読みにくいと感じます。知識・技能の確実な習得という点については、東京書籍では、低学年は書きやすい持ち方をしているか比べて確認できるように、等身大の写真が掲載され、土台となる技能の定着に力を入れています。このことは外国籍児童の学びにも適していると考えます。光村図書では、1、3年生は硬筆、毛筆の学習を始める学年であることから、スタートブックを掲載し、基本を大切にしていますが、「えんぴつのもちかた」において、横から見た写真が大きく掲載されていることで、誤って学習する心配もあります。上位2者は拮抗しておりましたが、可茂管内の児童には、東京書籍がより適していると考えます。

教科（社会科）種目（社会）は全5者ですが、特に東京書籍と日本文教出版の2者について説明します。社会科における「ふるさと教育」の推進に関わって、岐阜県に関わる事例や資料については、どちらも、単元「低い土地の暮らし」において海津市を取り上げ、ともに歴史資料館の服部さんの話を文書資料として掲載しています。デジタルコンテンツに関わっては、日本文教出版の二次元コードからは、NHK for Schoolにつながります。東京書籍の二次元コードからもつながりますが、別の二次元コードから動画でさらに詳しい服部さんの話を聴くことができます。「社会科が苦手だ・嫌いだ」という理由の1つに教科書の言葉が難しいことが挙げられます。可茂地区の課題である基礎的・基本的な知識の育成に、語句の習得を図る工夫は大切なポイントだと考えます。ここでは、6年生の「戦争」の単元、「原爆投下」の記述を取り上げます。日本文教出版は、「多くの人が一瞬で命を落とした」と書かれていますが、東京書籍は、「一瞬で何万人もの命が奪われる」と書かれており、状況を想像しやすい表現になっています。また、ソ連軍の動きについて、日本文教出版は、「侵攻」、東京書籍では、「せめこみ」と、やさしい言葉でかかれています。以上、比較検討した結果、可茂管内の児童には、管内の実態から考えまして、東京書籍が、より適していると考えます。

教科（社会科）種目（地図）は全2者、東京書籍と帝国書院です。初めて地図帳を手にする3年生にとって、抵抗なく地図学習にはいれるように、巻頭の「地図の決まりや使い方」について比較してみると、東京書籍は、イラストやデジタルコンテンツを使い、8ページに渡って紹介し、子ども

たちが興味関心をもって知識・技能を習得する工夫が見られました。帝国書院は、デジタルコンテンツとキャラクターの会話形式を使い、14 ページに渡って丁寧に紹介し、子どもが興味関心をもって知識・技能を習得する工夫が見られました。次に、ふるさと教育の推進の観点から比較してみると、東京書籍は、模式図や動画等を活用して岐阜県の地形の特徴が分かりやすく掲載されています。岐阜県に関わっては、35・36 ページのデジタルコンテンツにおいて海津市の空から見た映像動画や p.67 では模式図で低い土地の様子が紹介されています。帝国書院は、地図上のイラストやデジタルコンテンツにおいて、岐阜県の特産品や土地利用の様子が詳しく示されています。57 ページ・58 ページでは、岐阜県の地図上のイラストが 12 点紹介されています。60 ページでは海津市を含む低い土地の様子が模式図で分かりやすく示されています。最後に、可茂地区に多く在籍する外国籍児童や、学習に困り感をもつ子供への配慮という観点で比較してみると、東京書籍は、世界地図の主要国を日本語と英語で表記しています。帝国書院は、二次元コードにおいてポルトガル語でも表記されています。さらに、詳細地図にくわえて、情報の精選や特産物などのイラストも豊富で、誰にでもわかりやすい地図になっています。以上、比較検討した結果、可茂管内の子どもたちには、帝国書院の地図がより適していると考えます。

教科（算数）種目（算数）は全 6 者ですが、とくに東京書籍と大日本図書についてさらに調査しました。大日本図書は、他者に比べて、筆算の仕方とブロックや○などの図の操作を並べて表記している問題が多いです。大日本図書のみ並べて表記している問題は、 $4 + 23$ （P 32）などの 3 題です。一方東京書籍は、例えば  $76 + 58$ （上 P 89）は、教科書には筆算のみの表記となっています。2 次元コードを読み取ってみる動画には、図と筆算をつなげていますが、2 次元コードを読み取るひと手間を考えると教科書にも書いてほしいと感じました。大日本図書では、導入時に扱われている日常場面のイラストや写真の中に、単元で働かせたい数学的な見方の手立てとなる意図ある工夫が 1 ページに渡ってあるのが魅力です。4 年生面積の単元を例にすると、単元の途中に広さの感覚をつかませるために身の回りの物の面積を調べる活動があったり、単元末の確かめでは、身の回りの面積を問うなどの量感を養う問題が多数あったりします。このように生きて働く知識・理解の面で大日本図書の方が東京書籍に比べ優れていると考えます。次に、ICT の活用等については、各者ともプログラミング的思考を高めるページがありますが、その中でも大日本図書は全学年に位置付けられていますし、その量が他者に比べて多く優れていると考えます。以上、比較検討した結果、大日本図書の教科用図書が最も適していると考えます。

教科（理科）種目（理科）は全 5 者ですが、とくに東京書籍と啓林館の 2 者について比較検討したことを報告します。より確実な観察実験の実施

について、4年生「地面を流れる水のゆくえ」では、両者とも実験の手順や考察の視点を丁寧に示しています。実験方法について、東京書籍は「校庭の土」と「砂場の砂」を比較して実験しているのに対して、啓林館ではそれに加えて「じゃり」についても比較して実験をしているところに特徴があります。土の粒の大きさと水の染み込みやすさの関係についての考察を、より確かなものにできるような工夫がされています。安全への配慮については、両者とも「注意」「きけん」マークと赤字で説明がついています。東京書籍は集気瓶の場所を指定せず、「やけどをしないように気をつける」とあり、啓林館は「熱くなったビンのふたを直接触らない」というように具体的な図を付け、誰にでも分かるように説明がついています。これは、指導する教師にとっても、より具体的な指導につながります。また、日常生活や社会との関連については両者とも大切にし、いろいろな事物・事象を載せています。3年生「風の力のはたらき」では、東京書籍では、「理科の世界たんけん部」として風揚げと風力発電を取り上げています。啓林館ではまず身近な例としてタンポポの綿毛、強い風で壊れた傘を紹介し、さらにヨット、風鈴、風揚げ、風力発電を紹介し、つながりを大切にしていることがわかります。ここまで説明したように、東京書籍、啓林館ともに理科が求める「問題解決の力」の育成のために多くの工夫や配慮が見られます。しかし、細部にわたって比較検討した結果、可茂管内の児童には、啓林館が、より適していると考えます。

教科（生活科）種目（生活科）は全6者ですが、中でも東京書籍、光村図書の2者は、実際の授業を進める場面を想定し、教室での教師の投げかけや板書を示していました。多様な学び方になるように考え方やまとめ方の例がイラストを用いて、豊富に掲載されており、児童が学びの姿をイメージしやすいようにしています。東京書籍では、友達とのメッセージ交換や、お世話になった人へのインタビュー活動を通して、自分の成長に気付くしやすい構成になっています。また、おもちゃ製作の過程で児童がどのように思考しながら工夫していったかが分かるようにイラストを載せて、児童にとって学びやすい教科書になっています。光村図書では、一年間の生活を写真・絵・カードで振り返り、自分の成長に気付くことができる構成になっています。また、児童の対話が具体的で分かりやすく示されているため、児童がイメージしやすい教科書になっています。特に東京書籍は、「町探検」の単元と独立させる形で、調べたこと、分かったことを「伝える」単元を設定しています。発表会や表現活動の場を設定し、計画・準備・実施・振り返るという過程を経験させる中で、仲間との関わりができたり、より分かりやすくなる工夫を考えたりする学びの深まりがみられます。以上、比較・検討した結果、児童にとっての学びやすさ、教師にとっての指導のしやすさ等、東京書籍が、より可茂管内の児童に適していると判断しました。

教科（音楽）種目（音楽）は全2者、教育出版と教育芸術社です。教育出

版は、児童一人一人の思いや意図を大切にしながら、仲間と協働して音楽づくりの楽しさを味わうための配慮がなされています。教育芸術社は、仲間と互いに再生した音を無理なく正しく聞き合うことで、全体のまとまりを意識した旋律、変化のある旋律をつくりたいという児童の思いや意図を共有することのできる構成になっており、配慮が感じられます。教科書本体の印刷や製本等について報告します。どちらもユニバーサルデザインの観点で配慮がなされていました。教育出版は、音階が楽譜上の音符の中に書かれています。指使い番号と音符、階名、歌詞が縦一列に重ねてあることから、階名唱や歌唱がしやすく、フレーズのまとまりも感じ取りやすい紙面構成になっています。教育芸術社は、まず、カエルのイラストで音の高さを示しています。ドの音は口をすぼめ、目も見開いたびっくりした表情、レの音は、目を細め、にっこりした表情など、音によってカエルの表情を変えることも、音の違いを感じることができる配慮がなされています。また、カエル、指使い番号、階名、歌詞、鍵盤ハーモニカの図が、縦一列に重ねてあることから、児童が着目する範囲が焦点化しやすいという紙面構成になっています。以上、比較検討した結果、可茂地区の児童には、教育芸術社がより適していると考えます。

教科（図画工作）種目（図画工作）は開隆堂、日本文教出版の2者です。全体としては、どちらの教科書にもそれぞれ工夫が見られ、適切な配慮がなされており、ほとんど差はありませんでした。とくに、巻頭に年間の見通しをもつページがあり、2者ともに児童にわかりやすく示されています。図工の見方・考え方が広がるような題材を例にとります。開隆堂では巻末に「ひらめきショートチャレンジ」という資料で楽しんでできる小題材を取り上げ、活動を通して発想の仕方を示しています。日本文教出版では、「図工のみかた」という資料で、学年に応じて、低学年では五感をつかった身近なものの見方を紹介し、中高学年では、発想の仕方や発展的なものの見方を育むしかけがなされています。日本文教出版では、造形的な「ものの見方・考え方」「豊かな形や色との出会い」が一層大切にされています。以上、比較検討した結果、可茂管内の児童には、管内の図画工作科が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、管内の実態から考えて、日本文教出版が、より適していると考えます。

教科（家庭）種目（家庭）は、東京書籍、開隆堂の2者です。家庭科の授業経験の少ない教師が扱うことを考えると、学習の順が明確であり、示された通りに学習を進めると、自然に季節の比較をしながら学習ができる、指導のしやすさは重要な点だと考え、東京書籍がより配慮されていると考えました。調理に不慣れな児童、外国籍の児童、数的感覚が苦手な児童など、多くの児童にとって、教科書を開けば、作り方と、どのくらいの大きさに切るとよいかは明確である東京書籍の教科書は使いやすいものであると考えました。一方、開隆堂の教科書は、教師にとって指導しやすいものですが、実物大の例が巻末に掲載されているのは、見落とす可能性があ

るのではないかと考えます。これらの点から、どの子も確実に知識技能を身に付けるには、東京書籍がより配慮されていると考えました。教科書には多くのマークが掲載されており、特に安全マークは必ず注目し、取り上げるべき学習内容です。この点から、東京書籍がより配慮されていると考えました。以上、比較検討した結果、学習指導要領に示されている目標、可茂地区の状況や実態から考えまして、可茂地区の児童には、東京書籍がより適していると考えます。

教科（体育）種目（保健）は全6者ですが、可茂地区の子どもたちにとってふさわしい教科書という観点から、東京書籍と光文書院の2者について比較検討した結果を報告します。両者とも、資質能力の3本柱である「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養のバランスを意識し、東京書籍では、4つのステップで、光文書院は5つのステップで1時間の授業を構成しています。しかし、東京書籍では、原因だけでなく、事故やけがを防ぐための対策についても考え話し合う構成になっており、より考えを広げたり深めたりする力をつけるような工夫がされています。ICTの活用と個別最適な学びのつながりという視点では、光文書院は、毎時間、単元名の横にQRコードがあるものの、実際それが本文のどこに関わってくるのかがやや分かりにくく、活用場面を探す作業に時間がかかります。一方、東京書籍では、本文中の活用部分にQRコードが位置づけられており、迷うことはありません。さらに、QRコードの下にタイトルがついていることでどのような内容かも分かりやすく、直感的に活用できます。以上、比較検討した結果、指導者が大切にしている内容や学習指導要領に示されている目標、そして子供たちの実態から考えまして、東京書籍がより適していると考えます。

教科（外国語）種目（英語）は全6者です。6者を比較したところ東京書籍と開隆堂の2者が適していると判断しました。2者について、具体的な根拠とともに報告いたします。東京書籍は、より指導の重点が明確であり、4技能5領域の力、をより段階的にバランスよく育成できる構成です。「学年相互間の系統性、発展性」について、開隆堂も、5年生の巻頭に3・4年の学習事項を文字とイラストで提示され、重要な表現は5・6年生でも繰り返し扱われています。また、別冊のWordBookには、中学校で学ぶ重要語を星印が記載されており、スムーズな接続が図られています。この点において、東京書籍より充実していました。「主体的、対話的で深い学びの実現を目指した学習活動」について東京書籍は、児童が主体的に内容や方法、話し方について、思考・判断・表現する過程が位置づいています。東京書籍は、伝えたいことの考えを、形成・整理する活動が位置づいており、主体的、対話的で深い学びのできる学習活動が仕組める設計と言えます。以上、比較検討した結果、総合的に判断して、可茂管内の児童には、東京書籍がより適していると考えます。

教科（特別の教科道徳）種目（道徳）は全6者で、優れている点が多かったのは、東京書籍、光村図書、日本文教出版の3者でした。6年生の「手品師」という教材は、東京書籍と日本文教出版は4ページ、光村図書は6ページあります。6年生のページ数が最も多いのも光村図書です。可茂地区には、外国人児童など、読むことに配慮が必要な子どもが多いので、ページ数が少ない方が取り組みやすいと考えます。こうしたことから、さらに、東京書籍と日本文教出版の2者にしぼって調査を進めました。東京書籍は、状況の説明が中心で、気持ちを考えさせるようになっています。表現がシンプルであるというよさがあります。しかし、それゆえに行間を読み取るむずかしさがあります。日本文教出版は、気持ちを表す言葉を文字で表現しており、詳しくてわかりやすいというよさがあります。しかし、教材によっては、読み取らせたい気持ちも文字になってしまっているということもあります。それぞれの教科書にはよさがあり、大変迷いましたが、やはり、外国人児童、発達に困り感のある児童など、文章から気持ちを読み取ることが苦手な児童への配慮が必要であると考えます。以上、比較検討した結果、道徳の教科書は、日本文教出版がより適していると考えます。

金武教育委員 見やすさ、ICT活用、ふるさと教育等、どの教科書もやっていました。選ばれているところは、その中でも特によかったものが選ばれていました。どの教科書も、よくできていて、先生も教科書の通りにやっていけば教えやすいと思いました。その反面、同じような授業になってしまうのが心配で、その先生の授業づくりが大切になってくるのかと思いました。

教育長 小学校は中学校と違って、専門教科の担当教員が教えるのと違って、一人が全教科を教えることがほとんどです。高学年で一部、教科担任制もありますが、誰がやっても教えられるというのが大事になってきます。当然、教員の特質というのは必要なのですが、あまりにそこのようにデフォルメしてしまうと、学級間の格差が生まれてきてしまいます。皆が、やりやすい教科書というのが選ばれる一つかと思います。

原口教育委員 私も、共感するところが多くあって、文字の大きさであったり、見やすさであったり、最近の教科書は吹き出しがあるのだと思いました。漫画が教科書になるくらいかなと思いました。吹き出しというのはポイントなので、選ばれているものは、共感できるものでよかったです。吹き出しは、簡潔な方がよいと思いました。文字が多すぎるのはどうかと思いました。気付いたことですが、国語の光村図書の1年生「おおきなかぶ」の挿絵が原作とは違って、挿絵の作者名がありませんでした。東京書籍の方は原作の絵本と同じ挿絵でした。2年生、3年生で、「スイミー」「スーホの白い馬」があるのですが、原作の絵本を子どもに一度見せてあげてほしいと思います。教科書の世界だけではなく、実はこういった本があるよということを紹介だけでもいいのでしてもらえるとありがたいです。紙質ですが、家庭科の教科書は調理があると水で濡れてしまう心配があるので

- すが、水に濡れてもはじく紙でよい選択だったと思いました。
- 兼松教育委員 社会の教科書ですが、東京書籍は、単元の資料提示が絵であり、子どもがこのような形であれば話しやすく、イメージがつかみやすいなと思いました。学習過程がつかみ方、調べる、まとめるという方法であり、いいなと思いました。世界紛争がウクライナを始め、ありとあらゆる国であります。東京書籍は中村哲さんの功績をあげていました。日本文教出版は、紙面の4分の1を使って、ウクライナやアフガニスタンの紛争を取り上げていました。社会は、今の問題も取り上げていてあるといいなと思いました。道徳が、教科になりましたのでどんな教科書になっているか大変興味がありました。金武委員と教育長が言われたように、発問が丁寧に提示してありました。発問は先生の仕事ではないかと思いました。学級の実態も違うのに同じ発問でいいのかと思いました。先生の活躍場面、先生がやらなければならないことが載っていますから、平均的にはなるのでしょうか、やはり子どもの実態から発問をしていく過程が先生のおもしろさだと思います。東京書籍は、二次元コードがあり、タブレットPCを使って読み取ると朗読もしてくれるし、絵も出してくれる。多国籍の児童生徒がいるような学校ではぴったりだと思いました。
- 古田教育委員 私も、皆さんが言われることと同じことを感じました。国語の教科書について、「学習」というところがあって、問題集のような流れになっていました。以前の先生が使われている指導書のようなものに見えたのですが、説明文等では、授業の流れが細かい字でいっぱい書かれていて、あれを子どもが見たら、文章を読むのが嫌にならないかなと心配をしました、そうであれば、いろいろな種類の読み物だけ並べればよいと思いました。ただ、以前と違うのは、例えば光村図書では、「この本、読もう」ということで、同じようなジャンルの本の紹介があり、これはいいなと思いました。あの教科書を全部やったら、時間が足りないのではないかという感想をもちました。国語では3つの出版社を見ましたが、良いところを取り入れて、どれも似ていて、ほとんど一緒に、私が教材会社に問題集を発注するのと一緒に、これが好評となると、他の教材会社も、皆同じような構成になります。ここから一冊を選ぶというのは大変だろうなと思いました。だから、重さの記述もあったかと思いますが、これくらいの重さでちょうどいいとかになっていくのか、選定委員の方のご苦労もわかりました。
- 兼松教育委員 教員の指導書というのは、道徳もあるのですか。
- 教育長 あります。
- 兼松教育委員 指導書があるのだとすると、道徳の教科書は資料だけでよい気がします。
- 教育課主幹 道徳の指導書は、板書計画等、更に細かいことが書かれています。
- 教育長 子どもたちの教科書については、一人での読み物という位置付けもあるので、この時の気持ちはどうだろうと、考えながらできるようになっています。
- 兼松教育委員 板書計画というのは、とても大事で、子どもの発言を板書に位置付けて、

対峙させて、流れで見せるので、先生が考えてもらおうとよいと思います。  
指導書は、指導要領に応じて、その場面を分析しているのでその流れになっていると思います。

教育課主幹 初任者の方からベテランの方までおりますので、初任者の方が、それを参考にしなが、授業を組み立てるヒントになればという意図で書かれているものと思います。

教育長 私、当日の採択協議会に出させてもらいました。どの会社の教科書においても、P Rとなっていたのは、I C Tに活用です。だからこそ、一人1台タブレットを使って授業を使用する中で、二次元コードを読みとれば発音も聞けるとか、デジタル教科書のような資料が読めるとか、そういったI C Tの活用状況がどれだけ教科書とリンクしているのかどうかというのがまず1つです。2つ目は、可茂地区の実態とよく言われるのですが、学力的な実態は、各学校や各地域によって若干違いますが、大きく基礎基本を身に付けさせるためには、可茂地区は、坂祝町もそうですが外国籍の子が多いという実態があるからこそ、外国籍の子たちにとってもわかりやすい教科書を選ぶべきだという調査研究の人からの意見も出ました。その辺も加味しながら選ばれていると思います。

教育長 採決をとります。議案第24号について、承認することに異議はありませんでしょうか。

教育委員 異議なし。

教育長 異議なしと認めます。